

ボーナス2.7ヶ月 田川さんのおかげです！！

11月10日、2022年度年末手当手当（冬ボーナス）の会社回答がありました。東海労は、3.5ヶ月要求を掲げ中間決算969億円の黒字を根拠に3回の粘り強い交渉を重ねました。しかし、要求とあまりにもかけ離れた回答に対して、その場で再申し入れし、4回目の団体交渉に臨みました。

会社は「コロナ禍で先行き不透明だから」などと言い訳を並べ、組合はまだ出せる余力はあるとして対立のまま持ち帰り検討することとなりました。

不満が残る会社回答ではあるが・・・

今回の会社回答は、ユニオンの2.9ヶ月の要求からするとほぼ近い数字になります。

この間、コロナ禍を理由にして会社回答2.2ヶ月が続きました。

会社は常に「世間の動向」「JR 他社の動向」を意識し、低額にする口実をつくってきましたが、今回はJR 他社と比較しても1ヶ月以上増しの回答でした。

渋ちんの会社がなぜ今回、他社を大きく超える回答をしたのでしょうか？

それは、職場の実態からみてその答えは容易に推測できます。

職場の若手社員はこれまで当てにしていたボーナスも低額が続き、住宅ローンを抱え、子供の教育費などの出費もかさんで苦しい家計事情を余儀なくさせられてきました。祝日手当もなくなり、強制出向や労働強化など不満が鬱積していました。それに対して会社の言いなりで役員の自己保身だけのユニオンでは何も解決してもらえない状況でした。そうした状況の中、6月に田川さんが東海労に加入しました。

東海労を存続させてはならないと画策する会社にとって、平成採加入は驚異であり、この轍を二度と踏まない、そうした思いで、謂わば「ガス抜き」するための2.7ヶ月回答と言えるのではないのでしょうか！？

それは間違いなく「田川さん加入効果」です！

そしてさらに・・・

会社が10月31日に明らかにした「業務改革」の推進と「収益の拡大」を目指す取り組みは11月4日から職場で説明会が始まっています。それはボーナス回答に合わせた絶妙なタイミングです。まさに「毒まんじゅう」（これ食べて協力しろ！宜しく！）の意味合いも兼ね合わせた回答ではないのでしょうか！？

他労組の皆さん！東海労加入は賃金・労働条件改善に大きな効果をもたらします！

WELCOME！！